

平成22年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨

※2500字程度（1枚以内）

【本研究の背景および目的】、高齢者の増加とともに慢性心不全患者の増加が危惧されている。さらに、日本における疫学研究では、2040年には140万人に達すると言われている。慢性心不全患者の生命予後は不良であり、予後の改善には増悪予防への自己管理支援が重要となる。慢性心不全患者の症状は一定ではなく、身体的側面のみならず、抑うつなどの心理・社会面での問題もきたしやすいことから、綿密かつ継続的な看護支援の実施が求められる。在院日数の短い欧米において、心不全外来で実施される看護師主導の疾病管理プログラムは、患者の予後、QOL、薬物治療の遵守率を改善させることが実証されている。これらの背景から、日本における慢性心不全患者への看護専門職の活動の必要性は高い。日本循環器看護学会は慢性心不全看護認定看護師を日本看護協会に申請し、平成22年度2月に分野特定された。日本においても、心不全を専門とする看護師が、外来において患者の自己管理能力を高める教育支援、継続的な生活調整、症状緩和、ケア提供者も含めた心理的支援等の専門性の高い支援を提供することにより、再入院率の低下やQOLの向上が期待できる。このような背景から、本研究助成では、計画段階で以下の2つの研究目的を設定した。

- 1) 慢性心不全患者を対象とした心不全外来における効果的な看護支援の可視化
- 2) 看護師が参加する心不全外来の患者アウトカムへの効果の検証

まずは全国実態調査を行い、心不全看護外来の現状と課題を明らかに、必要とされる看護支援について検討した。さらに、本調査の結果に基づき、患者アウトカムの評価のための後ろ向き観察研究の準備を進めている。

【方法】平成22年11月～12月、日本循環器学会循環器研修施設（994施設）の外来看護師長を対象に自記式質問紙調査を郵送法にて実施した。調査内容は、1)心不全専門の看護外来の設置状況、2)外来で心不全患者に看護ケアを提供する看護師の実態、3)外来での看護ケアの対象、4)看護ケアの具体的方法および内容、5)多職種による心不全診療チーム、心不全に対する心臓リハビリテーション、地域連携、患者・家族教育の実態、6)心不全患者に対する質の高い医療提供のための課題について、である。本調査は倫理委員会の承認を得て実施し、質問紙の返送をもって研究同意とした。

【結果】994施設中、有効回答を得た311施設（31.3%）を分析対象とした。心不全専門の看護外来を設置している施設は、15施設（4.5%）であった。心不全患者を専門に外来看護を提供する看護師のほとんどが、専門看護師、認定看護師、院内での認定看護師、その他心臓リハビリテーション指導士などの資格を有していた。また、患者教育に重点が置かれ、心不全の病態や治療に関する内容とともに、日常生活管理の幅広い内容に関する教育が実施されていた。質の高い心不全医療提供への課題として、専門知識・技術を有する看護師の充足（92.7%）、コメディカルの教育（80.4%）が示された。看護外来を設置している15施設のうち協力を得られた施設において、患者アウトカムの評価のための後ろ向き観察研究を進めるべく準備中である。

【結論】心不全専門外来を有する施設では、患者教育が重点的に実施されているが、その設置数は非常に限られている。今後、このような外来での看護ケアが、患者アウトカムを向上させることを明らかにしていくとともに、外来の心不全ケアの質の向上にむけては、専門的な知識・技術を有する看護職の育成と充足が求められる。